

平成 23 年 10 月 7 日

各 位

会 社 名 東 洋 合 成 工 業 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 木 村 正 輝
(J A S D A Q コード番号 4970)
問 い 合 わ せ 先 専 務 取 締 役 経 営 企 画 部 長 川 村 繁 夫
電 話 番 号 0 3 - 3 5 4 8 - 4 9 7 0 (代 表)

当社子会社の株式会社トランスパレント社による米国Molecular Response社との
次世代のがん細胞培養システムの共同研究に関するお知らせ

当社子会社の株式会社トランスパレント社は、世界最大数 144,000 検体のがん患者様由来細胞を保有する米国 Molecular Response と次世代のがん細胞培養システムの共同研究を進めており、本年中の商品化を目指した取り組みにつきまして、本日、別紙の通り発表いたしましたのでお知らせいたします。

<本件に関するお問合せ先>
株式会社トランスパレント
千葉県印西市若萩4-2-1
宇於崎 晴基 (うおざき せいき)
TEL : 0476-98-3471
E-mail : uozaki@transparent.co.jp
URL : <http://www.transparent.co.jp/>

以 上

2011年10月7日
株式会社トランスパレント

世界最大数 144,000 検体のがん患者様由来の細胞を保有する米国 [Molecular Response](#) との次世代のがん細胞培養システムの共同研究を加速

日本をはじめとした先進国では、がんが死亡原因のトップになりつつあり、“がん”の克服は大きな社会的課題となっています。がんの病因の多くは、がん細胞内の遺伝子の異常やそれに伴う蛋白の異常などによることが分かっています。それらは患者様ごとに異なるため、患者様ごとに病因を明らかにして治療することがとても重要です。しかしながら、現在、がん細胞内の遺伝子や蛋白の異常が診断できるのはごく限られた場合のみです。患者様のがん細胞を生体内に近い状態で安定して培養することができれば、がんの病因を患者様ごとにより詳細に研究できるだけでなく、患者様に最も適した抗がん薬の選択に利用できる可能性があります。

[トランスパレント](#)と世界最大数の患者様由来のがん細胞バンクを保有する [Molecular Response](#) は、がん細胞をより生体内に近い状態で培養可能な次世代のがん細胞培養システムの研究開発を加速することになりました。この技術を確認し、バンクのがん細胞を培養して病因を研究することで、より安全で効果的な抗がん薬の研究開発が可能になります。

[トランスパレント](#)と [Molecular Response](#) は、本年3月より共同研究を進めてきました。これまでの研究で一定の成果を得ており、このたび、両社の経営資源を徹底投入する事を合意しました。がん細胞マーカーの決定も含め、本年中にも商品化したいと考えています。来年、2012年3月31日～4月4日に開催される AACR¹の年次総会での発表も予定しています。

【トランスパレントについて】

[トランスパレント](#)は、水溶性感光材技術と細胞培養技術を有効活用して、三次元細胞培養システム“Cell-able”の研究・開発・販売をしております。“Cell-able”は、現在、グローバルに、50以上の製薬企業、大学等の研究機関にて、がん領域の研究開発、幹細胞培養、医薬品候補化合物の毒性・代謝等の評価系プラットフォームとしてご利用いただいております。より詳細な情報は、こちらをご参照ください。

www.transparent.co.jp

【Molecular Response について】

[Molecular Response LLC](#)は、サンディエゴに本社をおく、世界最大数 144,000 検体のがん患者様由来の細胞バンクを保有する創薬支援企業です。より詳細な情報は、こちらをご参照ください。

www.molecularresponse.com.

お問合せ先
株式会社トランスパレント
千葉県印西市若萩 4-2-1
宇於崎 晴基（うおざき せいき）
TEL：0476-98-3471
E-mail：uozaki@transparent.co.jp

¹ AACR;米国癌研究会議(American Association for Cancer Research)の略称。1907年に米国で設立されたがん研究における世界最大の研究者団体であり、関連情報の発信源として世界中から高い信頼、評価を得ています。